図書紹介

桜美林大学教授　茂木俊彦　著

『障害児教育を考える』

2007・10　岩波書店
本体価格700円

吉田武雄

最近の特殊教育から特別支援教育への変化は急速です。その背景や障害児教育を包括的に理解するには、茂木俊彦さんの標記の書物が最適と思います。

著者は十七年前に同じく岩波新書で『障害児と教育』を出されています（それも名著でした）。「特別支援教育」となった今年度四月からの厳しい状況のなかで「専門を超えた共同を」など喫緊の実践的な課題を明らかにしています。

LD（学習障害）、ADHD（注意欠陥多動性障害）、高機能自閉症、「特別な教育的ニーズ」や「特別ニーズ教育」などの概念が要所々々に、文脈から理解できるように配慮されています。また障害の語をさけて障がいと表記するなど表現の変化は考え方の変化でもあることを国際的な動向も含めて触れられています。

直接この教育に携わらなかった私のような者にも理解しうるのは、随所に具体的な実践が全国的な視野から精選され、なぜそれが重要な意味を持つのかを明らかにしながら紹介されていることです。

例えば、河相美和子さん（神奈川県の養護学校教師）は自閉症の子どもとの関わりから、「行きつ戻りつ」しながら彼らが発達する特徴を発見します（165p）。

また大阪の松原六中の三浦千賀子先生と知世さんとの関わり。一年生の初めは視線をけっして合わさなかったのが、二年生の三月ついに筆談が出来るまでになり、アニメ映画「対馬丸」の内容を正確に把握に驚く（172p）。

終章は、「障害者の自立を励ます社会へ」です。〇五年の国会で成立した「障害者自立支援法」が、障害のある乳幼児をはじめ子どもにも適用されて障害児が療育施設で専門的な治療や保育を受ける回数を減らさざるを得ない現実を告発しています。

学校教育は社会の中で相対的に独立した営みですが、同時に社会と連続しており子どもたちをそこに送り出す機能を果たすべきで、〇六年末、国連総会採択の障害者権利条約の精神である「ほんとうにインクルーシブ（包摂的）な学校は、ほんとうにインクルーシブな社会を作り上げる取り組みと深く結合しなければ、実現不可能」と結論づけます。四〇年の研究と実践の集大成の書。

（よしだ　たけお）